

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

## 日進市地域公共交通会議

平成19年10月2日設置

フィーダー系統 平成29年3月10日 確保維持計画策定

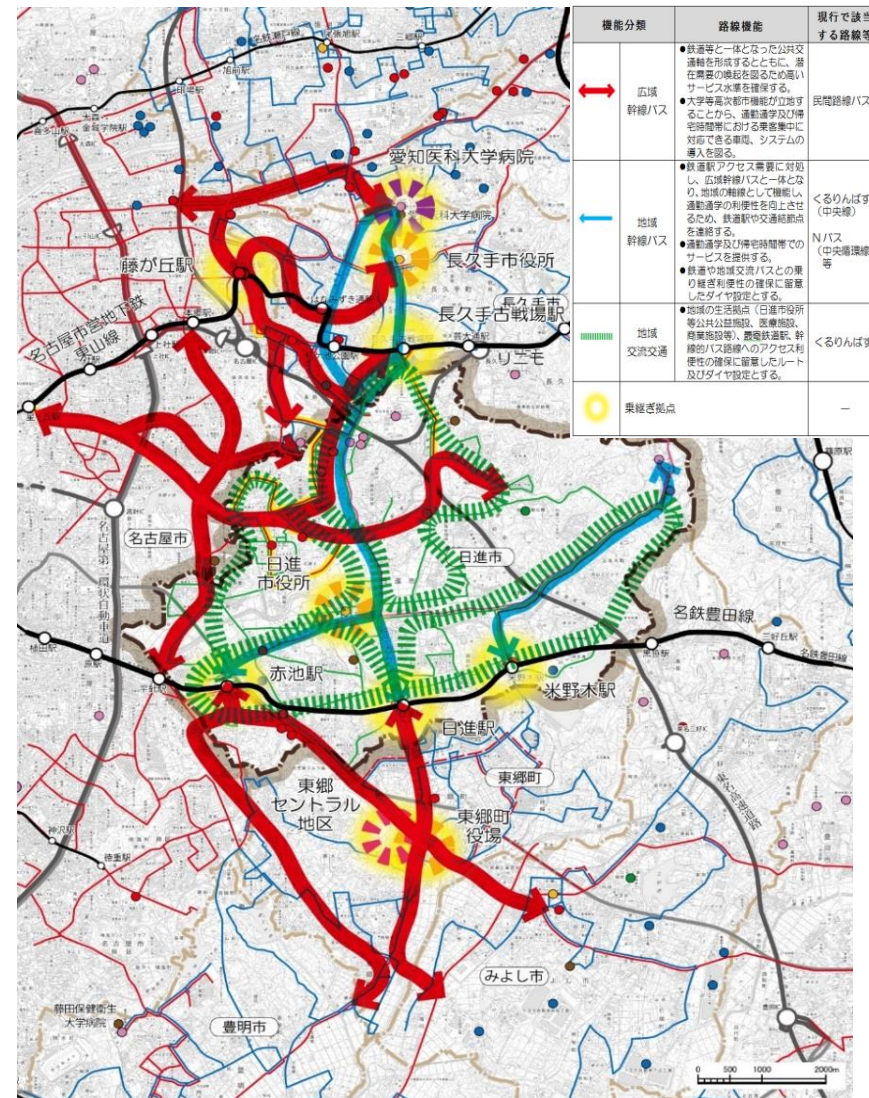
# 1.協議会が目指す地域公共交通の姿

## 公共交通網形成計画に描かれたビジョン

◎持続可能な公共交通体系を構築するため、鉄道及び路線バスを公共交通軸とし、くるりんばすやタクシー等の交通機関が相互に連携することで、「公共交通を利用して、誰もが安心して出かけられる、交通環境が充実したまち」の形成を目指すとしている。

## 日進市地域公共交通の基本方針

- 1 高齢社会への対応として、誰もがわかりやすく、安全で利用しやすい公共交通とします。
- 2 移動ニーズへの対応として、周辺市町への移動がしやすい公共交通ネットワークを形成します。
- 3 公共交通の利用促進として、魅力的な移動環境を創出します。
- 4 まちづくりとの一体化により、「いつまでも暮らしやすいみどりの住環境都市」の実現に向けた戦略的な公共交通体系を構築します。
- 5 多様な主体の連携により、持続可能な公共交通維持システムを構築します。



### 目標値の設定と評価体系

◎上位・関連計画である日進市総合計画及び都市計画マスタープランの計画期間との整合性の観点から、網形成計画の期間を平成27年度から平成32年度に設定。この期間に「公共交通を利用し、誰もが安心して出かけられる、交通環境が充実したまち」を形成するとしている。

### 日進市地域公共交通再編実施計画に定める事業の効果・評価指標

項目		事業の効果及び目標指標
公費負担額		再編前 148,705千円 → 再編後 146,630千円
収支率		再編前 19.9% → 再編後 26.2%
くるりんばす路線再編全体の事業効果と目標		平成26年度 433千人 → 平成32年度 570千人
路線別の 事業効果 と目標指 標	路線の新設(日進中央線)	平成26年度 71千人 → 平成32年度 79千人以上
	循環線	平成32年度 69千人
	赤池線	平成26年度 118千人 → 平成32年度 124千人
	米野木線	平成26年度 62千人 → 平成32年度 73千人
	三本木線	平成26年度 65千人 → 平成32年度 81千人
	梅森線	平成26年度 51千人 → 平成32年度 100千人
	五色園線	平成26年度 53千人 → 平成32年度 65千人
	岩崎線	平成26年度 47千人 → 平成32年度 58千人
事業全体 の効果と 目標指 標	日頃バスを利用する人の割合	幹線バス : 平成26年度 39.0% → 平成32年度 39.5%以上 地域交流交通: 平成26年度 32.8% → 平成32年度 34.0%以上
	公共交通の利用者数	平成25年度 10,079千人 → 平成32年度 10,900千人
	公共交通利用の不満割合	幹線バス : 平成26年度 39.1% → 平成32年度 35.0%以下 地域交流交通: 平成26年度 45.1% → 平成32年度 40.0%以下

### 3.目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容①

#### 再編実施事業(公共交通軸の形成)

実施事業	時期	概要
くるりんばす中央線の民間路線化	平成29年4月～	<ul style="list-style-type: none"> <li>南北移動の軸として、赤池駅とリニモ長久手古戦場駅を結ぶ幹線を設定。</li> <li>将来的な採算性を踏まえ、民間路線に変更。</li> <li>一日10往復から15往復に増便、最終便の運行時間を20時台から22時台に延長。</li> </ul>
くるりんばすの全線再編(フィーダー系統確保維持費国庫補助事業)	平成29年4月～	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用実態や生活圏域を考慮した路線を設定。</li> <li>民間路線バスや他のコースとの路線重複を極力回避し、公共交通全体としてのモビリティの向上を図る。</li> <li>南北軸を意識しつつ、鉄道、民間路線バス及び地域幹線バスとの乗り継ぎに配慮したダイヤを設定。</li> </ul>

2017 来年4/1～**くるりんばす** 全線再編

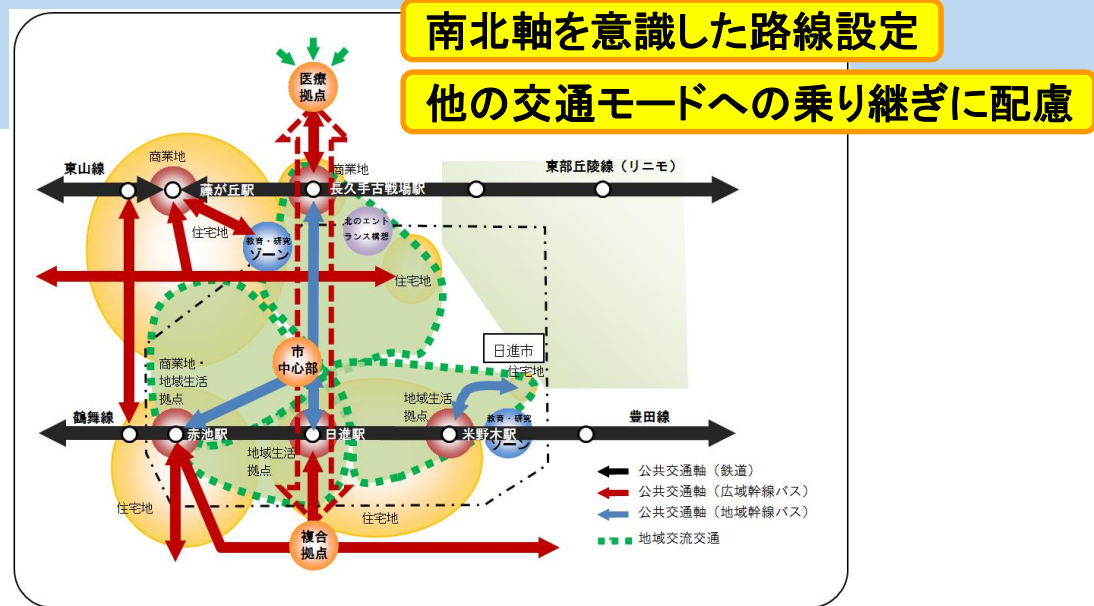


● 市役所～日進駅間を一時間に2本運行する循環線誕生!  
● お得な高齢者定期に加えて、一般・学生定期券も新発売!  
● 福祉・健康推進無料神楽大!  
● 1乗車200円(循環線100円)

※詳しくは2017年2月広報・市ホームページ



これまでの中央線が名鉄バス路線化!  
(赤池駅～竹の山～長久手古戦場)  
最終便は22時台まで拡大!

1 赤池線 2 米野線 3 三本線 4 梅森線 5 五色線 6 岩筒線 7 循環線



### ■ 3.目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容②

#### 地域公共交通確保維持改善事業費補助金対象事業

実施事業	時期	概要
<p>利用しやすいバス運行サービスの提供 (総合交通マップの印刷及び配布)</p>	<p>平成29年3月～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再編後の路線の周知とPRのため、分かり易い総合マップを作成。</li> <li>接続する他の交通モードの情報を掲載するなど、利用者目線に立って作成。</li> <li>市内公共施設の他、鉄道駅、市内小売店舗でも配布。</li> </ul> <p><b>【日進市総合交通マップ】</b></p> 
<p>利用促進を誘導する政策 (モビリティーマネジメントの実施)</p>	<p>平成29年11月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内にオープンした大型商業施設の内覧会に、公共交通機関を使って出掛けるMM事業を実施。</li> <li>バスと鉄道の両方を使うよう工夫。</li> <li>動機付け冊子を作成し、出発前に参加者に説明。</li> <li>事業実施後にアンケートを回収し、効果判定を行う。</li> </ul> <p><b>【動機付け冊子】</b></p>  <p><b>【バスに乗る参加者】</b></p> 



## 再編実施計画に定める評価指標に対する評価・検証

## ① 公費負担率・収支率

※再編から半年程しか経過しておらず、年間集計が出来ないため、実施しません。

## ② 中央線民間路線化の効果

【中央線4～10月乗客数前年比較表】

H28年度	H29年度	差	比率
44,752人	56,877人	12,125人	127.10%

## 現状に対する考察

- ・民営化後の乗客数は前年同期比127.1%。
- ・運行時間の延長、増便効果で利用者数が増加。
- ・距離別運賃制の導入で実質的には値上げ路線であるため、収支の改善が見込まれる。

## ③ 全線再編の効果

【4～10月全線乗客数前年比較表】

路線名	H28年度	H29年度	差	比率
三本木線	36,717人	19,774人	△16,943人	53.9%
梅森線	37,475人	26,979人	△10,496人	72.0%
赤池線	47,341人	34,759人	△12,582人	73.4%
五色園線	28,376人	40,945人	+12,569人	144.3%
岩崎線	34,063人	20,389人	△13,674人	59.9%
米野木線	32,150人	17,087人	△15,063人	53.1%
循環線	36,102人	33,397人	△2,705人	92.5%
中央線	44,752人	56,877人	+12,125人	127.1%
合計	296,976人	250,207人	△46,769人	84.3%

## 現状に対する考察

- ・再編後の乗客数は前年同期比84.3%。
- ・運賃の増額改定、ダイヤ改編に伴う乗り控え等により、利用者数は前年割れで推移している。
- ・平成29年11月に大型商業施設が市内で開業しており、今後の利用者数の増加が期待できる。

※②・③については第1回、第2回の日進市地域公共交通会議(5/20、9/28開催)で評価を実施。

## ④ 事業全体の効果

※再編から半年程しか経過しておらず、フィードバック調査未実施であるため実施しません。

## 地域公共交通確保維持改善事業費補助金対象事業に対する評価・検証

### ① 総合交通マップの印刷・配布

※第1回日進市地域公共交通会議(5/20、9/28開催)で評価を実施

補助対象事業として50,000部印刷

市内全戸配布を実施。平成29年8月時点で全部配布終了

接続する他の交通モードの情報を掲載するなど、分かり易い総合マップを作成

平成29年10、11月に実施した車内OD調査で路線図の分かりやすさの満足値が向上

市内公共施設の他、鉄道駅、市内小売店舗等でも配布

Fスーパー1店舗のみでも2,000部を配布

- 今後の方針 :
- ①引き続き路線のPRに努める必要があるため、増刷対応を行う。
  - ②新たにポケットサイズの時刻表を作成し、利便性の向上に努める。

### ② モビリティーマネジメントの実施

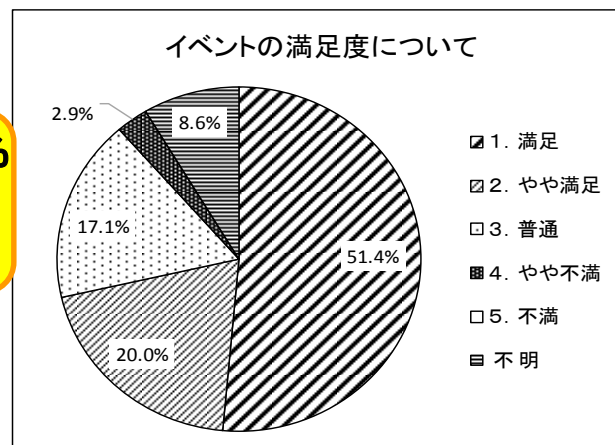
※第4回日進市地域公共交通会議(1/17)で評価実施予定

市内にオープンした大型商業施設の内覧会に、出掛けるMM事業を実施。

バスと鉄道の両方を使うよう工夫。

動機付け冊子を作成し参加者に説明。

全体の71.4%  
がやや満足以上と回答



- 今後の方針 :
- モビリティーマネジメント事業等、引き続き公共交通を利用してもらうきっかけ作りに努める。



### ①日進中央線の民間路線化に関する課題

- ・再編後半年間の利用者数を年間ベースに換算すると96千人となり、平成32年度目標である79千人と比較すると121%の実績となっているが、目標達成のためには長期間の継続利用が必要。
- ・距離別運賃制の導入で実質的には値上げ路線となっているため、批判や不満の声が聞かれる。

### 今後の対応方針

- ・利用者の継続確保に向けて、大型商業施設前に新たにバス停を設置し、利便性の向上に努める。
- ・新規設置バス停(商業施設側)に上屋を設置し、待合環境を向上させる。
- ・既に民間路線となっているが、平成30年度中に市でバスデータのGTSF化を進め、市のホームページで公開。インターネット各社で路線検索を可能とすることで利便性の向上を図る。
- ・上記の取組みを周知することにより、値上げに対する理解を得るよう努める。

### ②再編によって顕在化した課題

- ・慣れた路線、時刻が変更されたことに加え、運賃が増額改定となったため、利用者が減少した。
- ・一部の公共施設(市民会館等)や特定のポイント(個人病院等)に行き難くなったとの指摘が上がった。

### 今後の対応方針

- ・モビリティマネジメントの実施など、公共交通を利用してもらうきっかけ作りに努める。
- ・バスデータのGTSF化を進め、市のホームページで公開。インターネット各社で路線検索を可能とすることで利便性の向上を図る。
- ・フィードバック調査を行い、バス停設置箇所などの微修正や利用環境の向上を目指す。
- ・モビリティの更なる向上に向け、広域路線化の調査、検討を推進する。

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

## 日進市地域公共交通会議

平成19年10月2日設置

フィーダー系統 平成29年3月10日 確保維持計画策定

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
再編実施計画推進事業として、マップ作成以外にも取り組んでほしい。	1 1月にオープンした大型商業施設に、公共交通を使って出掛けるMM事業を実施。	引き続き、公共交通を利用してもらうためのきっかけ作りとなる事業を実施する。
名鉄バスに民営化したことにより、利用者ODなどの情報が把握できなくなっている。	1 1月末に3日間をかけて、民営化路線の車内調査、OD調査を実施。	市による平成30年度の調査実施は未定。

### ①コミュニティバスの全線再編を実施

- ・公共交通会議等で議論を重ね、路線の一部を民営化するなど、革新的な再編を実施。
- ・新規バス停の具体的な位置等については、周辺住民、運行事業者と地道な協議、交渉を重ねた結果、設置が実現。
- ・全線再編前日は、部局を超えた応援体制を構築。全バス停の表示を切り替える等の作業を行った。

### ②大型商業施設へ公共交通機関を使って出掛けるMM事業を実施

- ・開業前の内覧会への参加であったため、厳しい報道規制があった。商業施設側との交渉は5回以上に上った。
- ・産業振興部局とタイアップし、市の地域おこしイベントの講座の1つとしても設定。イベント冊子に掲載された他、専用ホームページからの申し込みが可能となったことで、広報経路よりも多数の申し込みを受け付けることが出来た。(HP申込:65%、はがき申込:35%)
- ・動機付け冊子を配布した他、複数の帰宅ルートを提示し選択させることにより、公共交通に関する知識の向上を図ることができた。

【イベント募集サイト】



### ③バスデータの国際標準化(GTFS化)を実施

- ・名城大学との共同事業という形で、愛知県初となるバスデータのGTFS化を実施。市がデータならびに実証実験フィールドを提供し、大学が研究開発を行う。今後、さらなる高度化を推進していく。
- ・名古屋モーターショーの会場内で研究成果を発表。尾東5市町共同でGTFS化に着手することを決定するなど、幅広い展開に注力。
- ・Googleマップ上でのくるりんばすの乗り換え案内が実現。YAHOO!地図でも検索が可能となるよう、市とYAHOO!社との間で交渉を開始。

【モーターショーでの研究発表の様子】

